

ICTを活用した授業を取材しました

八雲小学校の6年生が、総合的な学習の時間でICT機器を活用した授業を行いました。どのようにICT機器を授業に取り入れているか、指導された田中先生にお聞きしました。



6年2組担任・タブレットPC活用推進リーダー
田中大樹先生

この授業でICT機器をどのように使いましたか

タブレットとkeynote(アプリ)を使い、6年間生活してきたことを振り返り、プレゼンテーションする“八雲小学校の素敵な所を紹介しよう”の作成活動を行いました。特に「相手に伝えること」と「協力すること」を意識させ、自分の伝えたい内容の写真をフォルダから選んだり、文字を入力してスライドを作成したり、自ら写真を撮影し加工する活動を中心に行いました。



友だち同士で議論が進みます

ICT機器を使わない時と、使う授業では、何か違う点がありますか

ICT機器を使う授業については、多くの児童がノートで伝えるよりも自分の意見を伝えやすいといえます。発表するのが苦手な児童も進んで発表ができています。ICT機器を効果的に使うことで、より積極的に授業課題に対し、自分なりの考えを持つことができるといえます。また、ICT機器の最大の利点として、情報のやりとりが容易であり、児童の意見や、つまづきを一瞬で教員が知ることができるので、個に応じた対応がしやすいと感じています。

児童はICT機器(特にタブレットPC)を使いこなせていますか

機器を触ったことがない児童は少ないので、基本的な操作の指導はしません。文字入力については慣れておらず速くはありません。しかし子どもたちは、文字入力がやりにくいと感じると、自分たちで音声入力などといった別の入力方法を調べ変更しました。困ったときに自ら解決策を調べて実行できる力など、私の想像を超えて使っている場面もあります。

これから、どのようにICT機器を授業に取り入れたいと思いますか

これからは、ノートを使ってインプットし、ICT機器を使ってアウトプットするというハイブリットな使い方が大切だと考えています。やはり何かを考えたり、理解をさせたりするにはICT機器を使うよりもノートを使う方が効果的なように感じます。しかし、児童の考えを一括で把握したり、児童が発表したりする場面ではICT機器を生かすことで円滑な授業展開につながりますので、これからも授業に取り入れたいと思います。



6年生はラクラク操作します



この授業でICT機器をどのように使いましたか

友だち同士で議論が進みます

ICT機器を使わない時と、使う授業では、何か違う点がありますか

これから、どのようにICT機器を授業に取り入れたいと思いますか

これからは、ノートを使ってインプットし、ICT機器を使ってアウトプットするというハイブリットな使い方が大切だと考えています。

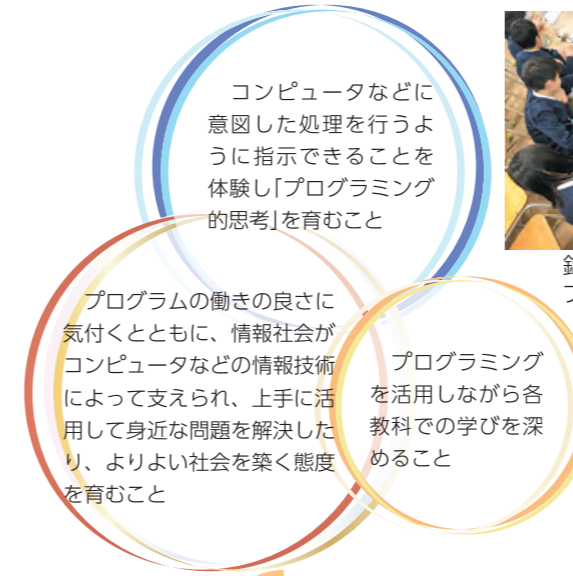
児童はICT機器(特にタブレットPC)を使いこなせていますか

機器を触ったことがない児童は少ないので、基本的な操作の指導はしません。

これから、どのようにICT機器を授業に取り入れたいと思いますか

これからは、ノートを使ってインプットし、ICT機器を使ってアウトプットするというハイブリットな使い方が大切だと考えています。

プログラミング教育の3つのねらい



錦小学校「音楽」
プログラミングの授業

プログラミング教育ってなんだろう?

PCやスマートフォンだけでなく、家電や自動車をはじめ、私たちの身近なものの中にはコンピュータが内蔵されていて、生活のさまざまな場面でこのコンピュータの恩恵を受けています。しかしコンピュータは「魔法の箱」ではなく、子どもたちに「人間の意図した処理を行わせることができるもの」であることを理解させたり体験させたりすることがプログラミング教育です。

コンピュータは人が命令を与えることによって動作します。この「命令」が「プログラム」であり、コンピュータに命令を与えることを「プログラミング」といいます。このプログラミングによって、コンピュータに自分が求める動作をさせることができるようになるのです。

プログラミング教育推進研究校～錦小学校～



プログラミングで子どもたちが自作の歌や曲を作る授業を行いたいですね

子どもたちがコンピュータなどを活用して、プログラミングをすることを体験し、楽しさ、面白さ、達成感を味わうことがプログラミング教育の目指している姿です。

プログラミング的思考とは、自分が意図する動きを実現するためにどのような動きの組み合わせを、どのような手順で行えばよいか、どのように改善していけばより意図した動きに近づくのか、といったことを試行錯誤しながら論理的に考えていく力のことです。理科の授業では、この思考をまず目標として授業を進めています。



錦小学校(理科)
タブレットPC活用
推進リーダー
西山克幸先生

プログラミング教育の研究授業では、子どもたちが理科の実験方法を考えたり、音楽では曲の様子を捉え、その曲に合わせたロボットの動きを作りました。また、算数では多角形の作図をするなど、それぞれの教科でプログラミング的思考を取り入れた授業をすることで、子どもたちが普段意識していなかった考え方を順序立てて整理をしたり、身の回りの仕組みとプログラミングの関わり気付くことができる学習を進めました。



錦小学校(音楽)
岡野衣里先生

社会で生かすための確かな資質・能力を学校教育で育む

昔は、帰宅後の学習で、分からないことや調べたいことがあると、翌日に学校や図書館に行かないと知ることができない時代でした。でも今は、スマートフォンやパソコンにつながったインターネットで瞬時に情報を得ることができる時代です。今の子どもたちが大人になる頃には、約65%が現在には存在しない職業に就くのではないかと推測され、今ある半数近くの仕事は、AIやロボットなどの情報技術により代替や自動化されるのではないかと推測されています。このような予測困難な時代を生きていく子どもたちには、機械では代用できない資質・能力を身に付け、社会で活躍できる力を学校教育で育んでいくことが必要だと考えます。

守口市の学校教育では、学習の基礎・基本となる知識・技能を教えることはもちろん、多様な価値観を持った人たちと話し合い、協働して解決策を見いだしていく力、人間にしかできない創造的な着想や考えを生みだし、意見や考えをまとめ発表する表現力、膨大な情報から適切な情報を集め、日々の生活をよりよくするために生かしていく力も育成します。そのために、授業では子どもたちが学習意欲を高めながら、学んだ知識を生かしてみんなで学びを深めていく「習得→活用→探究」と